

第 35 回 唐の社会と文化

1 唐の社会

・唐の都である（ ）は、国際色豊かな政治・経済の中心とであった。
→100万人の人口をかかえる世界最大の都市となっていた。

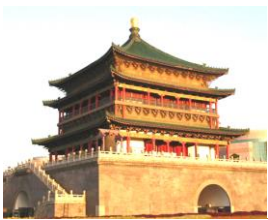
・オアシス都市を拠点に交易を行っていたイラン系の（ ）や、海の道を利用した交易を行っていた（ ）（アラブ人）も、中国を訪れた。

→（ ）・（ ）などの都市には、外国人居留区の蕃坊が置かれた。

※海上貿易を管理する役所である（ ）が、広州に初めて置かれた。

・城内には市が設けられ、城外にも草市という非公認の市場が作られた。

→飛銭という送金手形制度が生まれ、宋代に世界初の紙幣が生まれる下地となった。



西安の鐘楼

鐘楼の鐘によって、一斉に城門が開閉された。現在は観光スポットであり、夜はライトアップされて非常に美しい。



餃子の屋台

小麦の製粉技術も、シルクロードを通じて中国に入った。小麦粉を使った餃子などは、胡食と呼ばれて庶民に親しまれた。



阿倍仲麻呂の記念碑

西安(かつての長安)には記念碑があり、有名な歌が刻まれている。遣唐使として唐に渡り、科挙に合格して玄宗に仕えた。最後は節度使まで出世するという凄まじい人生である。

2 唐の宗教

・仏教ではインドから持ち帰られた仏典が中国語訳され、インドの仏教とは異なる仏教が誕生して、日本や朝鮮にも影響を与えた。

※天台宗、真言宗、禅宗、浄土宗などは、この時期に盛んとなった。

・また西方から伝来した外来宗教の寺院も数多く建てられた。

<インドへ行った仏僧>

() …唐の僧。7世紀前半、陸路で()時代のインドを訪れて、ナーランダー僧院で学んだ。
→陸路で帰国し、持ちかえった仏典を中国語訳した。
→『 』という旅行記を書いた。

() …唐の僧。7世紀後半、海路で分裂時代のインドを訪れた。
→海路で帰国途中スマトラ島の()に滞在し、『 』を書いた。



大雁塔

帰国した玄奘は、ここで仏典の翻訳を行った。高宗時代に建立されている。

<外来の宗教>

() …ゾロアスター教の中国名。

() …()キリスト教の中国名。
→781年、大秦景教流行中国碑が建てられた。

摩尼教 …マニ教の中国名で、ウイグル人の間で流行した。

() …イスラーム教の中国名。清真教ともいう。



清真寺

玄宗時代に建てられた。イスラーム教のモスクだが、中国風の造りになっている。

3 唐の文化

- ・唐の文化は、南北朝時代からの貴族文化と、シルクロードを通じて入ってくる国際色豊かな文化に特徴がある。
- ・唐代の詩は（ ）と呼ばれて盛んとなり、日本などでも教養とされた。
- ・工芸では、（ ）と呼ばれる彩色の陶器がつくられた。

閻立本 …初唐の画家。すぐれた人物画を描いた。

（ ）…盛唐の画家。玄宗の宮廷画家として、山水画や人物を描いた。

李思訓 …盛唐の画家。すぐれた山水画を描き、「北宗画の祖」とされる。



胡旋舞

イラン系の金髪で青い目をした少女が、激しく回転するダンスを踊り、客はワインを飲みながらそれを鑑賞した。長安はまさに国際都市であった。



ポロをする唐代の人

ポロは馬に乗って棒で球を打つ競技で、ペルシアから唐に伝わった。現在でも行われており、ポロをやる時に着るシャツをポロシャツという。



唐三彩

クリーム色、緑、赤、もしくは緑、赤褐色、藍というように、3色の組み合わせで色がつけられていることが多いので、三彩という。

（ ）…盛唐の詩人で画家。自然を詠んだ詩人として知られる。

山水画を描いた画家としても有名で、「南宗画の祖」とされる。

（ ）…盛唐の詩人で、「詩仙」とされる。酒好きで有名。

（ ）…盛唐の詩人で、「詩聖」とされる。「春望」や「兵車行」など、現実社会の苦しみをうたった詩が多い。

（ ）…中唐の詩人。平易でわかりやすい詩が多い。「長恨歌」が有名。



李白

とにかくお酒が大好きだった。玄宗に仕えたこともあるが、酔っ払って暴言を吐き、クビになって追放された。死に方も有名。



杜甫

一生貧乏であちこちを転々とし、あまり幸せな生涯だったとは言えない。そのぶん人間社会の哀しみを表現した名作が多い気がする。国破れて山河在り…。



白居易(白樂天)

詩と文の総数は、唐の詩人の中でも最多の3800! 『枕草子』や『源氏物語』も、白居易の影響を受けているとされる。

（ ）と（ ）…ともに中唐の文章家で唐宋八大家のひとり。漢以前の古文復興を主張した。

虞世南・欧陽詢・褚遂良…書道にすぐれ、初唐三大書家とされる。

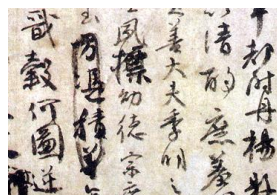
（ ）…盛唐の書家。力強い書風で知られた。政治家としても活躍し、安史の乱の際には、義勇軍を率いて反乱軍と戦った。

（ ）…唐初の儒学者。五経の注釈書である『 』を編集した。



韓愈

六朝以来の四六駢儷体を、「言葉の華麗さばかりを追い求めていて内容に乏しい文章が多い!」と批判。



顔真卿作「祭姪文稿」

書道の歴史では、王羲之と並ぶビッグネームである。流麗な王羲之に対し、顔真卿は力強さと穏やかさを兼ね備えているとされる。



陸羽

最古の茶道に関する本である『茶経』を書いた。唐代には庶民の間にもお茶を飲む風習が広まり、続く宋代には政府によって専売とされた。